

沖縄県西表島 10 月のカミキリムシ

土田 孝

〒 431-3192 浜松市東区半田山 1-20-1 浜松医科大学病院病理部

Cerambycidae collected at Iriomote Island, Okinawa Pref., SW. Japan, in October

Takashi TSUCHIDA

ここ数年、年間をとおして西表島のカミキリ相を調査していく中で、今春ノコギリヒメコバナカミキリ *Epania iriei* Takakuwa, 1981 の再発見をすることができた（土田ほか, 2011）。楨原（1989）によれば、同属のクマタヒメコバナカミキリ *E. dilaticornis kumatai* Hayashi, 1961 が沖縄本島において 10 月に確認されていることなどから、2011 年 10 月 6～8 日の 3 日間に沖縄県西表島においてカミキリムシを中心とする生息調査をおこなった。その結果、ノコギリヒメコバナカミキリの再確認はできなかったが、16 種類のカミキリムシ科を確認するに至った。カミキリムシを目的とした採集者がほとんど訪れない時期の記録であり、また南西諸島においては、クロカミキリ亜科、カミキリ亜科、フトカミキリ亜科の中で、その発生が年 2 化である可能性が述べられていることや（楨原, 1989; 土屋, 2009）、ヨツスジカミキリ *Notomulciber* (*Micromulciber*) *quadrisignatus* (Schwarzer, 1925) においては、12 月に採取した幼虫を室内飼育した結果、翌年 5 月に羽化脱出した記録も報告されている（日下部, 2008）などのことから、今回の確認種を発生、活動時期の記録として報告しておきたい。特筆しておきたい種として、従来 5～6 月に成虫がカラスザンショウの生葉を後食に訪れるシロアラゲカミキリ *Penthides flavus multipubens* Makihara, 1978 の確認は、生葉を後食するといった生態面からも意外であり、また今回、雄個体のみしか確認できなかったことも今後の調査の課題になったと考えている。確認種は以下のとおりで、すべて筆者採集である。

カミキリ亜科

1. ヒゲナガヒメカミキリ *Ceresium longicorne* Pic, 1926
1♂, 古見林道, 6. X. 2011; 1♂, 大富林道, 7. X. 2011.
2. オオバヤシトゲヒゲトラカミキリ *Demonax ohbayashii* Samuelson et Gressitt, 1965
1ex. 目撃, 古見林道, 6. X. 2011.

フトカミキリ亜科

3. イシガキゴマフカミキリ *Mesosa* (*Mesosa*) *yonagunii subkonoii* Breuning, 1964
多数目撃, 古見林道, 6-8. X. 2011; 数頭目撃, 大富林道, 7. X. 2011.
4. ムネコブゴマフカミキリ *Mesosa* (*Saimia*) *cervinopicta* (Fairmaire, 1897)
数頭目撃, 古見林道, 6. X. 2011.
5. ヨツスジカミキリ *Notomulciber* (*Micromulciber*) *quadrisignatus* (Schwarzer, 1925)
1♀, 古見林道, 7. X. 2011.
6. イシガキタイワンチビカミキリ *Sybra* (*Sybra*) *pascoei ishigakii* Breuning et Ohbayashi, 1964
1♀, 大富林道, 7. X. 2011.
7. サキシマアトモンチビカミキリ *Sybra* (*Sybra*) *mimogeminata* Breuning et Ohbayashi, 1964
1♂, 古見林道 6. X. 2011; 1♀, 大富林道, 7. X. 2011.
8. ヤエヤマアヤモンチビカミキリ *Sybra* (*Sybra*) *flavostriata flavostriata* Hayashi, 1968
2♂, 1♀ (多数目撃), 古見林道, 6-7. X. 2011.
9. フタホシサビカミキリ *Ropica honesta* Pascoe, 1865
1♀ (数頭目撃), 古見林道, 8. X. 2011.
10. ハヤシサビカミキリ *Ropica loochoana hayashii* Breuning, 1958
2♂, 1♀, 古見林道, 6, 8. X. 2011; 1♀, 大原, 7. X. 2011.
11. イリオモテコブバナサビカミキリ *Pterolophia* (*Ale*) *gibbosipennis iriomotei* Breuning et Ohbayashi, 1966
1♂, 古見林道, 6. X. 2011.
12. アナバネヒゲナガカミキリ *Mimorsidis yayeyamensis* Samuelson, 1965
2♂ (多数目撃), 古見林道, 6-7. X. 2011; 1♂ (多数目撃), 大富林道, 7. X. 2011.
13. シモフリナガヒゲカミキリ *Xenolea asiatica* (Pic, 1925)
1♀, 古見林道, 7. X. 2011.
14. コゲチャサビカミキリ *Mimectatina meridiana ohirai* Breuning et Villiers, 1973
3♂, 1♀ (多数目撃), 古見林道, 6-7. X. 2011.

15. オビレカミキリ *Euseboides matsudai matsudai*
Gressitt, 1938
1♂, 1♀, 古見林道, 7-8. X. 2011.
16. シロアラゲカミキリ *Penthides flavus multipubens*
Makihara, 1978
3♂ (多数目撃), 古見林道, 7-8. X. 2011

引用文献

日下部良康, 2008. ビロウを加害していたカミキリムシ2種.

月刊むし, (453): 58-59.

横原 寛, 1989. 沖縄島・10月のカミキリ. 月刊むし, (215): 21.

土田 孝・大木 裕・内藤準哉・日下部良康・鎌苅哲二・新里達也, 2011. 38年ぶりに再発見されたノコギリヒメコバネカミキリ. さやばねニューシリーズ, (2): 33-39.

土屋利行, 2009. 沖縄県西表島で11月に採集したカミキリムシ. 月刊むし, (460): 43.

(2011年11月12日受領, 2011年11月20日受理)

【短報】東京都におけるセマルタマキノコムシ属2種の採集例

セマルタマキノコムシ属 *Cyrtoplastus* は、日本から3種が命名記載されている。琉球に産する1種をのぞき、筆者の手もとに東京都内で採集した本属2種があるので、以下のように記録しておく。標本は筆者が保管している。

1. セマルタマキノコムシ *Cyrtoplastus seriepunctatus*
(Brisout de Barneville, 1867)

2 exs., 東京都あきる野市小川 (多摩川河川敷), 24. III. 2008.

池周辺の草地の落葉層をシフティングすることで得た。各地に比較的ふつうにみられる種で、今回の採集例のように、平野部の、河川敷草地の落葉層からもよく得られる。東京都では、大田区 (1997) や皇居 (野村ら, 2000, 2005, 2006) からの記録がある。

2. カイセマルタマキノコムシ *Cyrtoplastus hiranoi*
Hoshina, 1996

2 exs., 東京都西多摩郡奥多摩町倉沢谷, 24. II. 2007.

東京都初記録。冬季に溪流沿いの広葉樹林内で、

落葉落枝層をシフティングすることで得た。タイプ産地の山梨県 (Hoshina, 1996) のほかは、これまで神奈川県からの記録しかなく、稀種のようなのである。

近似のセマルタマキノコムシに比べてやや小型で、上翅の点刻列数が多く、点刻列間の小点刻がより疎であることなどにより、区別はむずかしくはない。

引用文献

野村周平・平野幸彦・斉藤明子・上野俊一・渡辺泰明, 2000. 皇居の甲虫相. 国立科学博物館専報, 36: 185-255.

野村周平・平野幸彦, 2005. 赤坂御用地ならびに常盤松御用邸の甲虫相. 国立科学博物館専報, 39: 183-223.

野村周平・上條哲也・市野澤慎, 2006. 皇居における空中浮遊性甲虫の多様性と動態 — 2004年度地上FITによる調査. 国立科学博物館専報, 43: 187-240.

大田区, 1997. 大田区の昆虫. 大田区自然環境保全基礎調査報告書, 136 pp.

Hoshina, H. 1996. A taxonomic study on the genus *Cyrtoplastus* (Coleoptera, Leiodidae) of Japan. Japanese Journal of systematic Entomology, 2(2): 201-205.

(亀澤 洋 350-0825 川越市月吉町32-17)

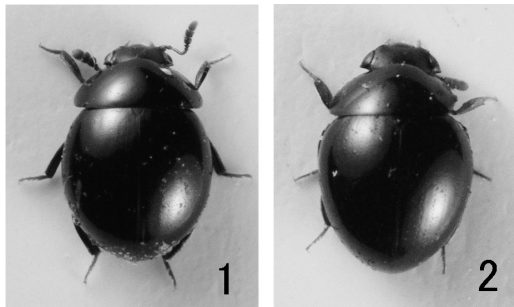


図1. セマルタマキノコムシ (あきる野市産) ; 図2. カイセマルタマキノコムシ (奥多摩産) .